



ミニトマト

F1 Cf小鈴

葉かび病耐病性、斑点病に強く
食味の良いミニトマト



ミニトマト

F1 CF小鈴

葉かび病耐病性、斑点病に強く、食味の良いミニトマト

品種特性

1. 中葉で節間が短く草勢は強いが、土壌水分や肥料に鈍感で芯止まりや異常茎が出にくく栽培しやすい。
2. 花房は3-4段目付近から2-3本に枝分かれすることが多く、着果性に優れ、1花房あたり20-25果程度で安定する。
3. 一果重15-20gで果揃いが良く、省力的である。果色は濃赤色でやや光沢があり、荷姿が非常に美しい。食味は甘みとコクがあって美味。
4. 果実は硬く、収穫・調整時の作業性や輸送性・店もち性に優れる。裂果は極めて少ない。
5. ToMV(Tm-2a)、萎凋病レース1、葉かび病(Cf9)に耐病性強。ネコブセンチュウに耐病性中程度。斑点病に耐病性中弱。
6. 越冬長期どり、半促成および抑制栽培に適する。

栽培のポイント

ほ場準備

元肥は窒素分量で10kg/10aをおよその目安とし、前作の肥料残効を考慮して施用する。育苗ハウスや定植するハウスの周囲に網を張って害虫の侵入を防止する。

育苗

育苗は素直な苗作りを心がける。灌水を控え気味にし、鉢ずらしを早めに行い、節間が短めのがっちりした苗を養成する。定植苗は蕾が小さく見える程度～第1花房の第1花が開花する少し前程度を目安とする。

定植・管理

高温期に定植する場合、活着するまで株元に少量多灌水し、必要に応じ軽い遮光を行う。活着後は灌水を控え、根張りを良くし、過繁茂になり過ぎないように注意する。

高温時に花数が極端に多くなる場合、先端を摘果する。着色し始めたなら3枚位ずつ下葉をかくが、最低でも葉数18枚は確保し良品生産を心がける。

追肥・灌水は第3花房開花ごろから草勢と土壌水分の状態を見ながら開始し、少量多灌水を基本とする。

収穫期が高温や多日照のときには、着色時の障害(果実表面の硬化による裂果・着色不良・食味低下など)を防ぐため、果実に

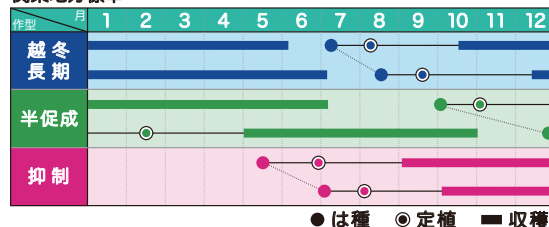
直射日光が当たらないよう葉陰を作るか、日中の数時間の遮光により果実を保護する。

病虫害防除

- ToMV(Tm-2a)、萎凋病レース1、葉かび病(Cf9)に耐病性強。ネコブセンチュウに耐病性中程度。斑点病に耐病性中弱。
- 黄化葉巻病、黄化病、黄化えそ病、キュウリモザイクウイルスには耐病性を持たないので、コナジラミ、アザミウマやアブラムシなどの防除を徹底する。葉かび病の耐病性はCf9であるが、それを侵す新しいレースが発生しているので、防除を行う。
- 青枯病の汚染ほ場では、足じまんSS、褐色根腐病対策には足じまんZを用いて、接木栽培をする。

作型図

関東地方標準



ヴィルモランみかど株式会社

〒267-0056 千葉県緑区大野台1-4-11
TEL:043-311-6100 FAX:043-205-5503

vilmorinmikado.jp

Vilmorin MIKADO

掲載内容の複製やデータ、写真の無断転用を禁止します。